

基本課題Ⅱ 教育・学習（男女平等意識をつくる）

目標3 男女平等の視点に立った意識改革と社会制度・慣行の見直し

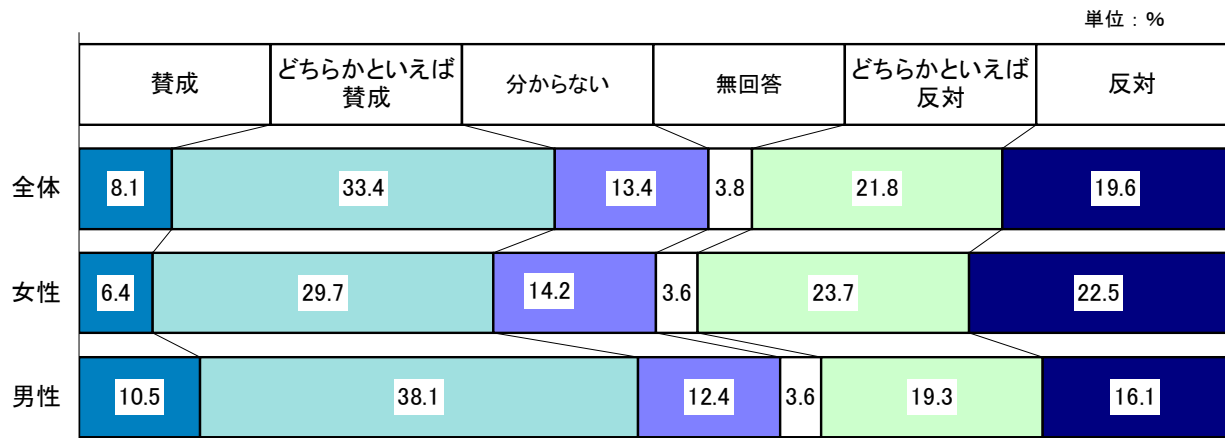
- (1) 男女平等意識をつくるための啓発活動の充実
- (2) 男女平等の視点に立つ行政職員の育成
- (3) 社会制度・慣行の見直し

状況

平成21年度の意識調査では「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識について、「反対」・「賛成」がほぼ拮抗している状況です。ただし、20代の若者を対象に行った意識調査では、「強くそう思う」「少しそう思う」の合計は女性が割合が高いという結果になりました。

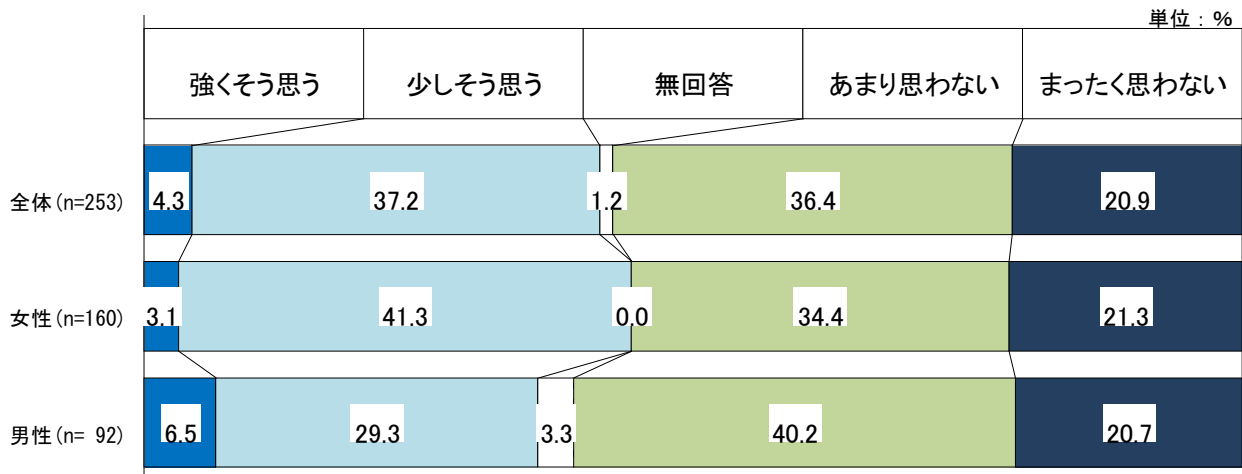
「男は仕事、女は家庭」という考え方について（平成21年度市民意識調査）

調査対象：柏市在住の20歳以上の男女
 標本数：4,000人
 調査方法：郵送による調査



「男は仕事、女は家庭」という考え方について（平成24年度市民意識調査）

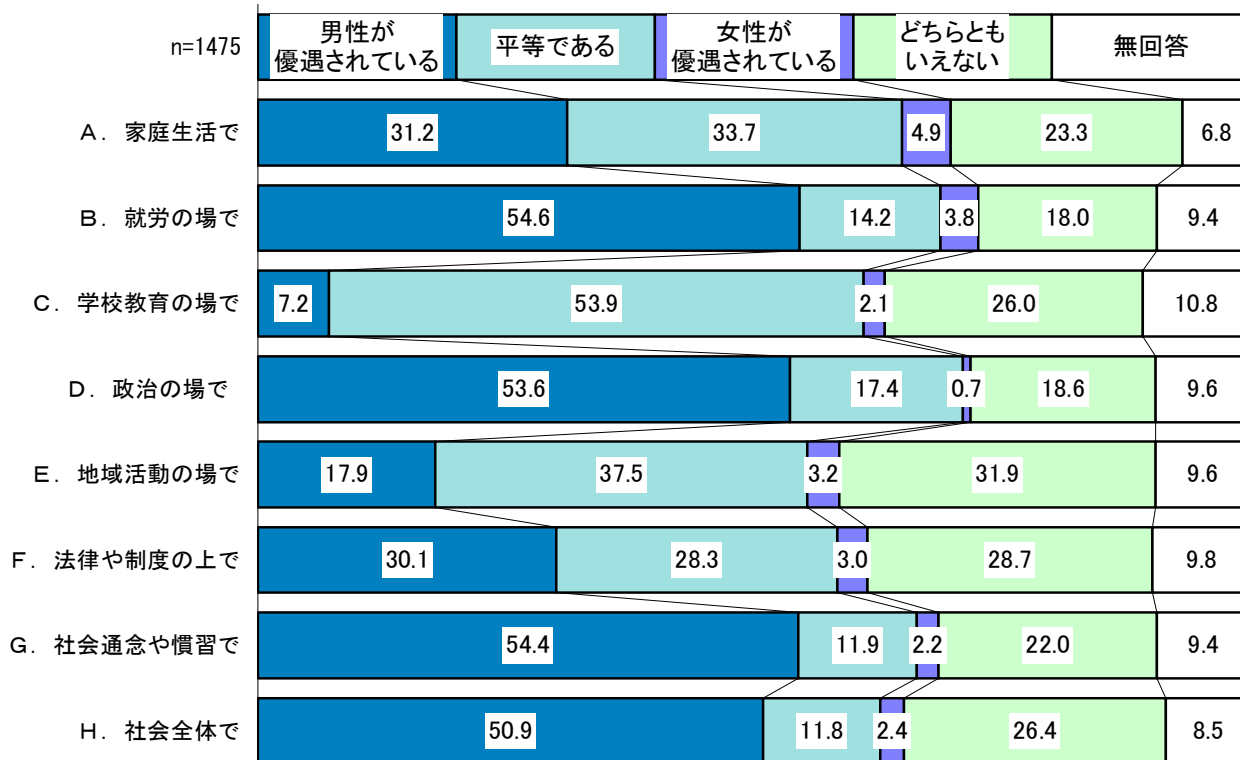
調査対象：柏市在住の20歳代の男女
 標本数：1,800人
 調査方法：郵送による調査（1,000人）
 インターネット調査（800人）



男女の平等感について（平成21年度市民意識調査）

調査対象：柏市在住の20歳以上の男女
 標本数：4,000人
 調査方法：郵送による調査

単位：%



もっとも平等であるとの回答が多かったのは「学校教育の場」でした。逆に「就労の場」「政治の場」「社会通念や慣習」「社会全体」で「男性が優遇されている」との回答が半数を超えました。まだまだ多くの分野で男性が優遇されていると感じられているようです。

特に取り組んだこと

1 柏市男女共同シンポジウムを開催しました

◇柏市男女共同参画シンポジウム（平成25年1月26日，平成24年12月9日）

固定的な意識にとらわれず、多様な生き方を認め合い、多様な選択ができるように、男女共同参画について理解を深めるためのシンポジウムを開催しました。

公募の市民・市民団体による柏市男女共同参画シンポジウム実行委員会が企画・運営を行いました。

また、初の試みとして1月のシンポジウムに先立って12月にDVについて学ぶ分科会を開催しました。

男女共同参画室

《内容》 第1部（参加者162人）

- ・平成24年度働く男女（ひと）と家庭に優しい企業表彰
- ・講演「みんなで子育てーパパママジジババそして地域でー」
講師 大日向雅美氏（恵泉女学園大学大学院 平和学研究科教授）



シンポジウムの様子



基調講演
（講師 大日向
雅美さん）

第2部 分科会 5講座（参加者132人）

自分らしく生きること、男性の子育て参加、労働、DV防止について

2 柏市インターネット男女共同参画センターからの情報発信・啓発を行いました

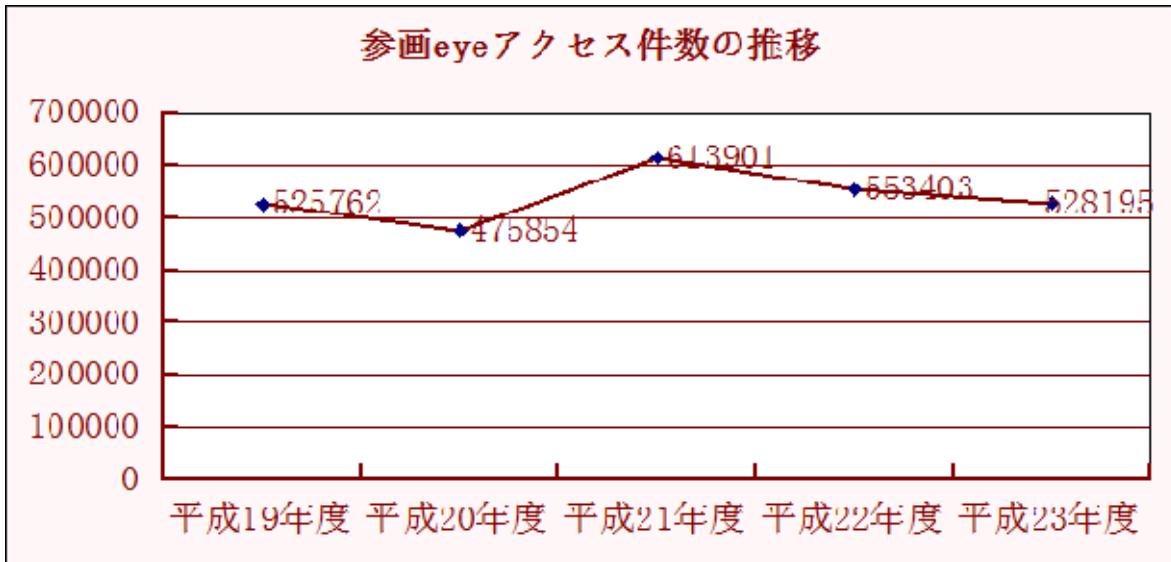
◇柏市インターネット男女共同参画推進センター

インターネット上の男女共同参画共同参画推進センターとして、毎日、更新を行い、情報・学習・相談・交流が行い、男女平等意識の啓発に継続的に努めました。

男女共同参画室

柏市インターネット男女共同参画推進センター「参画eye」

<http://danjo.city.kashiwa.lg.jp>



3 男女共同参画の視点に立った人材管理を行いました

◇男女共同参画の視点に立った職員の採用、登用、育成

職員の新規採用については、性別に一切とらわれない内容で実施しました。

職務配置については、女性管理職をより重責な職務への配置を積極的に行いました。

また、職員を対象とした男女共同参画講座や、男女共同参画推進審議会、市の幹部職員からなる男女共同参画推進庁内連絡会議・幹事会を対象に男女共同参画についての講座を実施しました。

人事課・男女共同参画室

推進状況

「男は仕事、女は家庭」といった固定的な性別役割分担意識を持たない人の割合

平成 24 年度 平成 27 年度目標
4 1 . 4 % ⇒ 5 0 %

※平成 24 年度は当時の直近の市民意識調査結果（H21）の数値です。

「社会全体において、男女が平等になっている」と感じる人の割合

平成 24 年度 平成 27 年度目標
1 1 . 8 % ⇒ 2 0 . 0 %

※平成 24 年度は当時の直近の市民意識調査結果（H21）の数値です。

啓発事業への若い世代（10～40歳代）の参加割合（シンポジウム）

平成 24 年度

35%

⇒

平成 27 年度目標

50%

主な取り組み

- ・インターネット男女共同参画センターによる情報発信・学習情報の提供や（男女共同参画室）
- ・情報紙の作成（男女共同参画室）
- ・講座の実施（男女共同参画室）

今後の取り組み

- ・インターネット男女共同参画センターを活用した若い人向けの啓発コンテンツの検討・作成（男女共同参画室）

目標 4 あらゆる場での男女平等教育・生涯学習の推進

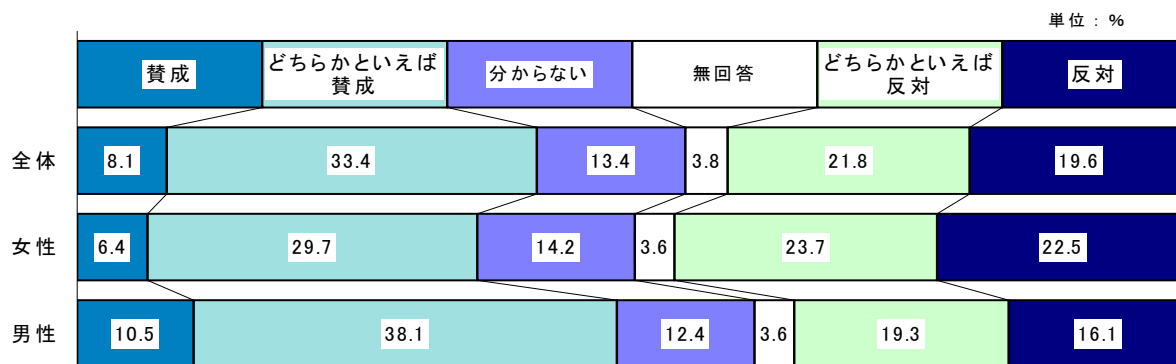
- (1) 家庭教育における男女平等意識の啓発
- (2) 保育園・市立幼稚園における男女平等教育の推進
- (3) 学校における男女平等教育の推進
- (4) 社会における男女平等に関する生涯学習の推進

状況

職場や家庭、地域社会においては、「男は仕事、女は家庭」という性別役割分担意識、制度・慣行の中に存在する女性への差別や偏見などが依然として残っていることがうかがえ、平等意識は十分に浸透しているとはいえない状況です。また、20代を対象とした市民意識調査では男性が優遇されている点として「昇格やポストの割り当て」と回答した方が最も多く、「議員の人数」が2番目に多い結果となりました。逆に女性が優遇されている点として「勤務先（アルバイト等も含む）での役割」と回答した方が最も多い結果となりました。これは性によって割り当てられる仕事に差があるものと推測されます。

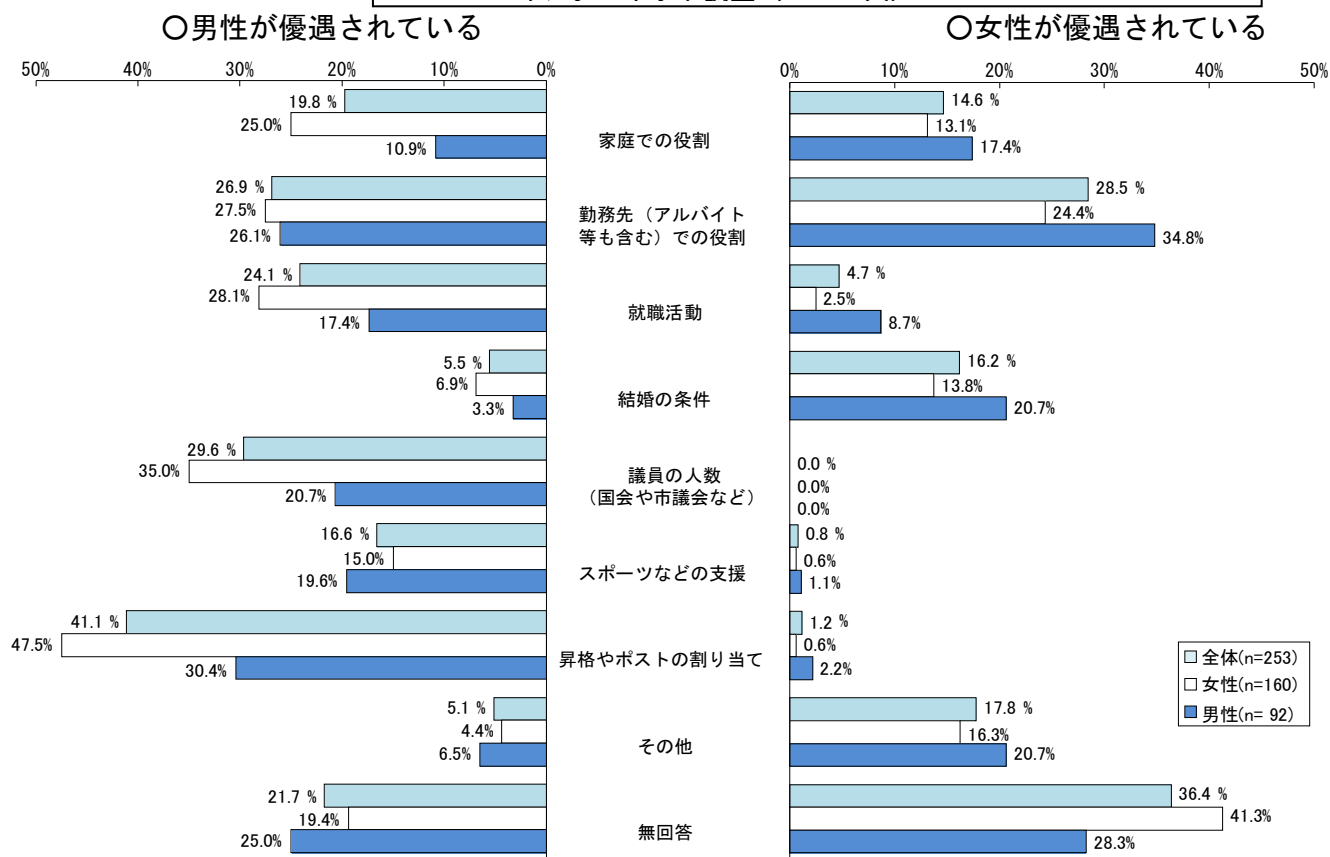
「男は仕事、女は家庭」という考え方について（平成21年度市民意識調査）

調査対象：柏市在住の20歳以上の男女
 標本数：4,000人
 調査方法：郵送による調査



性で優遇されていると感じたこと（平成24年度市民意識調査）

調査対象：柏市在住の20歳代の男女
 標本数：1,800人
 調査方法：郵送による調査（1,000人）
 インターネット調査（800人）



「議員の人数」などで「男性が優遇されている」と声が多かったが、「勤務先」では「女性が優遇されている」との声が多かったようです。単純には比較できませんが、「就労の場」で「男性が優遇されている」意見が多かった21年度の結果とは異なる結果となりました。

特に取り組んだこと

1 教職員への啓発資料を作成、配布しました

◇啓発資料「柏市『男女共同参画をめざす教育』」を作成

教職員対象の人権尊重教育研修会において、柏市の施策・教育委員会や学校現場での取り組みを紹介し、今後も継続して取り組むよう啓発を行いました。

教育研究所

2 関係する講座を行いました

◇男女共同参画週間

男女共同参画週間にあわせて3つの講座を行いました（保育有）。

- ・サッカーコーチに学ぼう「食事とコミュニケーション」（6月 30人）
- ・つぶやこう！つながろう！子育てママのためのツイッター講座（7月 20人）
- ・パパの絵本読み聞かせ・バルーンアート（10月 24人，11月 20人）

3 男女平等教育に関する学習資料の提供を行いました

◇図書館で関係資料を収集、貸出・情報提供を実施

男女共同参画週間や、女性に対する暴力をなくす運動期間、男女共同参画シンポジウムの際に図書館ロビーで企画展示を行いました。関連資料の収集や展示、企画展示に合わせたブックリストを作成し、啓発に努めました。

庁内連携

〔平成24年度図書企画展示〕

- ・6月 コミュニケーション，食育など
- ・11月 読んで考えたい。夫婦・家族・親子の絆
- ・12月 共に学び、共に働き、共に生きる

3 生涯学習情報の提供を行いました

◇生涯学習システム「らんらんかしわ」から学習情報を発信

生涯学習システム「らんらんかしわ」で生涯学習の情報を集約、出前講座や生活に密着した講座など、民官学の幅広い情報を提供しました。生涯学習情報提供システム「らんらんかしわ」や出前講座の実施や生涯学習ボランティアシステムによる活動をとおして、情報を提供しました。

生涯学習課

生涯学習システム「らんらんかしわ」
<http://ranran.city.kashiwa.lg.jp/>

推進状況

学校教育の場において男女が平等になっている」と感じる人の割合

平成24年度

53.9%

⇒

平成27年度

75%

※平成24年度は当時の直近の市民意識調査結果（H21）の数値です。

主な取り組み

- ・生涯学習の場の提供。女性セミナー（全6回）開催（公民館）
- ・啓発資料「柏市『男女共同参画をめざす教育』」で、隠れたカリキュラムの点検と見直しについて例を挙げて示すとともに、「柏市男女平等教育実践事例集」の活用を呼びかけました。（教育研究所）

今後の取り組み

- ・男女共同参画の課題を取り上げた講座の実施（男女共同参画室）
- ・研修会などにおける教職員への男女平等教育の啓発（教育研究所、指導課）
- ・啓発資料「柏市『男女共同参画をめざす教育』」の内容の見直し・配付（教育研究所）